

虫治塚手

てづか おさむ

マンガで世界をむすぶ

国松俊英



ONAMU TEZUKA

手塚治虫



マンガで世界をむすぶ

もくじ

はじめに 2

第1章

手塚治虫 マンガの世界

この手塚マンガがおもしろい

- ① 「鉄腕アトム」 8
- ② 「ジャングル大帝」 10
- ③ 「リボンの騎士」 12
- ④ 「ブラック・ジャック」 14

第2章

手塚治虫の マンガ人生

- ① マンガが大好きな家庭 18
- ② 乾先生と石原くん 21
- ③ 北野中学に入学する 24
- ④ トイレの連載マンガ 27
- ⑤ 新人マンガ家の誕生 30
- ⑥ 「レオ」と「アトム」が登場する 33
- ⑦ トキワ荘のマンガ家たち 37
- ⑧ テレビアニメ「鉄腕アトム」始まる 40
- ⑨ 「もっと仕事をさせてくれ」 43

第3章

もっと知りたい 手塚治虫

手塚治虫をよく知るための7つのキーワード

- ① 手塚治虫を育てた「宝塚」 48
- ② マンガ「新寶島」はどこが新しいの？ 50
- ③ マンガの聖地となった「トキワ荘」 52
- ④ 手塚マンガを「A」がつくる 53
- ⑤ 個性あふれるキャラクターたち 54
- ⑥ 「ガラスの地球」 59
- ⑦ 「手塚治虫記念館」へどうぞ 60

手塚治虫 年表 61

さくいん 62

●発表期間：1973年11月～1983年10月（『週刊少年チャンピオン』）

「ブラック・ジャック」

4

無免許の天才外科医、ブラック・ジャックが、難病や大げがの人々を救うため世界中を飛び回ります。



「ブラック・ジャック」は、医師免許をもたない天才外科医が活躍するマンガです。生と死がぎりぎりの、きびしい状況にいとむブラック・ジャックを通して、人間と人間社会の本当のすがたを描きだそうとしています。医学生だったころの自分につうじる人物ということ、考えだされたキャラクターです。ブラック・ジャックが最初に登場したのは、雑誌『週刊少年チャンピオン』の1973（昭和48）年11月19日号でした。第

1回「医者はどこだ！」で、その医師はさっそうとすがたをあらわします。ヨーロッパのある国で、世界一の実業家の息子が交通事故をおこします。その息子は、頭の骨が折れ、首の骨も折れ、肺も胃もつぶれていますが、医者はおう助からないといいますが、実業家は世界中をさがしてブラック・ジャックを見つけてます。実業家は無実の青年を事故の犯人に仕立て上げ、死刑になるように仕組み、青年の体を使って息子を助けようとし



▶手塚治虫は医師免許をもっていたが、もし自分が医者になるならこうなりたいと、理想のすがたを描いた。それがマンガの「ブラック・ジャック」だった。

▶1996年11月公開の劇場用アニメ。©手塚プロダクション・松竹

◀メスや鉗子などの手術道具をもつブラック・ジャック。



ます。そこでブラック・ジャックは、青年の顔に整形手術をほどこすことで、罪のない命を救うのです。

マンガの第1回の終わりに、次のことが入ります。「ブラック・ジャック 日本人である以外 素性も名まえもわからない。だがその天才的な手術の腕は 神業とさえいわれている。このなぞの医者はいきょうもどこかで メスを持ち奇跡を生んでいるはずである」。このマンガは大評判となり、連載マンガになって10年も続きました。



▶雑誌『週刊少年チャンピオン』連載のときの扉絵（1978年3月6日号）。

3 北野中学に入学する

登山班から地歴班へ ふたりで昆虫を追う

1941(昭和16)年4月8日、大阪府立北野中学校(いまの北野高校)に入学しました。北野中学は、阪急電車の十三駅から北に歩いて、15分のところにあります。北野中学は、大阪では名門の中学として知られていました。ここは自由な校風で、治の大阪府池田師範学校附属小学校からも、そこへ進学する者が何人もいました。

入学試験は、筆記試験がありません。小学校から成績報告書が送られ、面接試験と身体検査がありました。小学校からは、成績と治が石原くんたちとつくった科学雑誌の1冊、「クモの生活」が送られていました。面接をした校長先生は、この科学雑誌にとっても興味をもちました。それで、「どうしてこんな雑誌をつくったの」とか、「この『クモの生

活』の文は、ひとりで考えて書いたの？」という質問をしました。治は、雑誌をつくった動機やクモの習性について、こたえました。校長先生や面接の先生たちは感心し、治は入学試験に合格することができました。

治は、5年生のときに科学雑誌をつくらうといだした石原くん、感謝をしました。北野中学では1年3組となり、ひとクラスの生徒は48人でした。大きなつばの学生帽をかぶり、丸いえりの学生服に、校章のついたかばんをななめにかけて登校しました。

北野中学にはいろいろな班があつて、治はどの班に入ろうかとまよっていました。4月の終わり、登山班が新入生に生駒山登山に参加しませんかとよびかけていました。生駒山にはめずらしい虫がいるかもしれない、と治は昆虫採集の用意をして参加しました。その日、治は登山

のとちゅうも、網を使ってチョウなどを追いかけていました。「あいつ、網などぶり回して、なにをしようか」

新入生たちは、虫を追いかける治に興味をもって、集まってきた。治は生徒たちに、つかまえた昆虫を見せてその種類や、生態をおもしろく説明しました。

「お前、虫のことに詳しいな」そのころ、昆虫採集をする人間は少なく、めずらしいものでした。生徒たちは、生駒山登山より昆虫採集に、興味をもちました。治にぞろぞろついて歩き、その日は治の昆虫説明会のようになっていました。新入生の林久男くんも、治の話にひきつけられ、昆虫に興味をもちました。ふたりは友だちになりました。

地歴班では昆虫の研究をやるというので、治と林くんは地歴班に入りました。けれど、古い寺めぐりばかりです。それで治と林くんは、寺にいても仏像の鑑賞など

中学生のころ

1941年4月、大阪府立北野中学校に入学したころの治。左は、中学時代に描いた自画像。



やらず、もつぱら境内の林で昆虫を追いかけていました。

林くんは、宝塚にもやってきました。治の案内で、宝塚の山や雑木林を歩いて昆虫採集です。カブトムシやチョウなど、たくさん昆虫をつかまえました。

治の家の庭には、アオスジアゲハやシジミチョウがいます。「手塚くんはええとこに住んでるなあ」

林くんは、うらやましがりました。その後も林くんは、よく宝塚にきて、治と昆虫採集をやりました。つかまえた虫のことでわからないことがあると、宝塚昆虫館をたずねます。そこには昆虫に詳しい学芸員がいて、治たちの質問にいていにこたえてくれました。昆虫館にあるめずらしい昆虫の標本も見せてくれました。

2年になった治は、林くんと相談して博物班をつくることにしました。その班なら、好きなだけ昆虫採集や昆虫の研究ができるのです。博物班では、『動物の世界』という研究雑誌をだすことにしました。治は第1号に、フクロウチョウの表紙絵を描き、「昆虫と戦争」という文を書きました。会報は第2号で、終わってしまいました。

中学でも教練の時間が でも昆虫図鑑をつくる

1941年の12月8日、日本軍はハワイの真珠湾を攻撃しました。そして太平洋戦争が始まりました。翌年4月には、アメリカ軍機の本土への空襲が始まり、南太平洋の島では、日本軍とアメリカ軍とのはげしい戦いがありました。

治のお父さんも召集をうけ、陸軍主計少尉として、堺の陸軍病院ではたらい回していました。その後お父さんは中国にわたり、さらに朝鮮にいきました。



『動物の世界』と 『原色甲虫図譜』

左は、1942年につくった『動物の世界』第1号。右は、1943年につくった『原色甲虫図譜』第1集。



マンガ「新寶島」はどごうが新しいの？

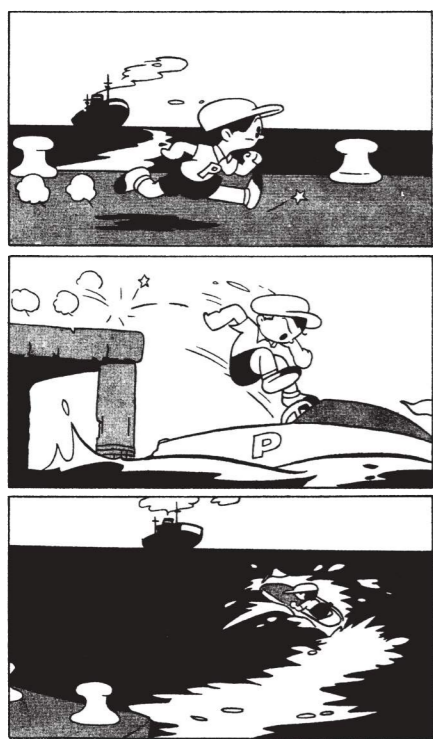
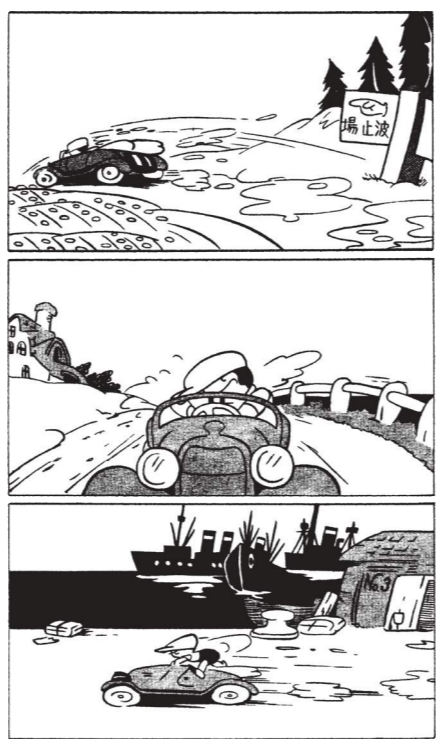
日本のマンガに新しい風を吹きこんだ1冊の単行本マンガ。戦後まもなく発売されたこの本に、日本の子どもたちが夢中になりました。「新寶島」は、どんなマンガだったのでしょうか。



©手塚プロダクション・酒井七馬

40万部を売る大ヒット

手塚治虫のはじめての長編マンガ単行本。手塚マンガによく出てくるケン-が、主人公の少年・ピートを演じる。



新しいマンガの描き方

前から横から後ろから……。さまざまな角度からキャラクターの動きをいきいきと描いている。

赤本の『新寶島』は、手塚治虫、

はじめての長編描きおろし単行本です。それまでは4コママンガや短い作品がほとんどでした。

この本は、関西のマンガ界でよく知られた酒井七馬とふたりでつくりました。酒井は新人マンガ家を見つけた、育てることに力を入れていました。あるとき手塚は、自分が描きためた長編のマンガを見てもらいました。すると酒井は、自分といっしょに仕事をしようといったのです。

「ぼくのアイデアときみの絵で、1冊マンガ本をつくらないか」願ってもないことです。手塚はすぐに承知しました。

酒井がストーリーをつくり、ノートにコマ割りを描きます。それをもとに、手塚が自由に絵を描いて1冊のマンガ本をつくるのです。手塚は画用紙をどっさり買いこみ、

「船長さん……」
「オヤッ、ピートくんじゃないか」
ここではじめて人物の会話ができますが、それまではコマをどんでん返ししながら、物語を展開していくのです。

「新寶島」を読んだ子どもたちは、「ピート少年が動いている」「スポーツカーやモーターボートの音がかきこえてくる」と思いました。こんなマンガの描き方は、それまでだれもやっていません。こうした描き方は「映画的手法」とよばれ、新しいマンガの描き方だと高く評価されたのです。

それまでのマンガは、構図が固定され、決まった目の位置から描かれ、その位置は動きませんでした。手塚のマンガはちがっていました。「新寶島」を読んだ子どもは



死んだ父親が残した宝島の地図をたよりに、ピート少年が冒険の旅にでる。

仕事を始めました。秋に作品は完成し、「新寶島」は1947（昭和22）年1月に育英出版からできました。

「新寶島」のマンガ本のページを開きます。「冒険の海へ」という章のタイトルが描かれています。そのタイトルの下には、スポーツカーに乗った少年が波止場へ急ぐ絵が、

「もうひとつ、「新寶島」には読者の子どもをおどろかせたところがありました。それは、すぐに終わる短い話ではなく、長編の物語だったのです。ページをめくっていくと、どんな話が広がり、深まっしていきます。このあとどうなるのか、どんな最後になるのか、予想もつきません。おもしろい世界がずっしりとつまった「ストーリーマンガ」でした。それも新しいつくり方でした。

「新寶島」は、本文のマンガはぜんぶ手塚が描きましたが、表紙と折りこみの口絵は酒井が描いています。この本は40万部を売るといふ大ヒット作になり、太平洋戦争のあと出版された日本マンガのさきがけとなりました。そして、手塚治虫の名前は、マンガ界に広く知られることになりました。